

## 平成23年度卒業生「I Cで学んで」抜粋

卒業を間近に控え、上記の題で3年生がエッセイを書いてくれました。それらの中から、印象的な言葉を抜粋しました。先輩たちの想いをしっかりと受け止め、自分のことにおきかえて読んでみて下さい。

老人ホームや福祉施設に行ってお手伝いさせてもらえたりとか面倒くさいと思ったけど、いま振り返ると他の高校であまりしないことだと思うし、仕事とかには繋がらなくても、どこか自分の中での社会に対する意識が変わったし、遠かったことが少し身近になった。

私の場合、みんなより少し長く留学しました…全力でぶつかっていくことの大切さも学んだことの一つです。そして、全て自分の責任であることが向こうでは多かったのですが、自分で自分のことを決めるといのは優柔不断な私には少し大変でしたが…自分は今まで人に頼ってきたこと、そのことのありがたさを感じました。日本に帰国した時はみんなそろって、変わったね、と言われ、何がか、と聞くと、自分のことは自分でできるようになり、少しですが、自主性が身についたと思います。

I Cコースのように毎日2時間や3時間、英語の授業がある高校はあまりないと思います。毎日外国人の先生の本物の英語とふれあえる授業があるおかげで、私の英語力もだいぶ伸ばすことができました。

国際文化コースに入ったおかげで、毎日、本物の英語に触れられて、ニュージーランドにも行け、自分の英語力が自分の知らないうちにどんどん上がっていくのが分かりました。しかも、この生活が私に目標を作ってくれました。それは、大学に行ったら、どこか英語圏にもっと長期留学することです。ニュージーランドではとてもラッキーで過ごしやすい状況でしたが、今度はもっと厳しい状況で、自分の英語力を上げたいです。

入学した当初は、何を話しているのか全然わからなかった英語も、今はわかるようになったし、外国人の先生が言っているジョークもわかるようになりました。

友達もたくさんいたので、留学というよりもグループ旅行のようでした。でも、家では言いたいことをうまく伝えきれず、他人と1ヶ月ほど生活するという苦しさにとまどいを隠しきれず、自分の弱さを改めて感じました。

留学に行くだけで英語が上手になると思っていたのですが、そうではなかったのです。下手くそでもなんでもいいからとりあえず英語で話し、相手に伝えようという意志が大切なんだと思いました。

I Cで学んで、たくさん苦勞もしたし、外国語を学ぶ難しさを改めて痛感させられたけど、人間的にも学力的にも成長したし、国際的な視点から物事を見ることも学ぶことができ、良い経験になりました。

私はブロック・リーダーもしていたので2日ごとぐらいに関西高校模擬国連用のBBSで他の学校の人たちとやりとりをしていました。本番が近くなると、教室で小さな会議を何回もしました。私にはそれが楽しくて仕方ありませんでした。本番はもっと楽しいだろうと想像しながら、積極的に練習していました。

まず第一に茶道です。もともとずっと歴史が好きだったので、茶道というものをやってみたいと思っていました…できればこのまま茶道を続けてみたいとも思っています。

(ニュージーランドでは) クラスの子が1人バディとして付いてくれたので、教室なども迷うことなく過ごせました。それにランチなどの時間以外はほとんど西高生と会わなかったのが、常に英語でやり取りすることができました。行く前に授業で習った英語をたくさん活用でき、ホストともご飯を食べながらいろんな会話をすることができました。

NZにいて一番使った言葉はThank you だったかもしれません。感謝してもしきれないぐらい周りの人たちに支えてもらいました。人の温かさや、支えられて生きていると気づいたことは、この留学で学んだ大きなことだと思います。

実力テストでのリスニングなどの成績が上がるのを実感し、ネイティブの先生の授業が大切なことに気が付きました。ニュースや新聞を作ったり洋画を見たり、いろいろな方法で英語が学べてすごく楽しく授業を受けることができました。

ポジティブ・シンキングは大切だと思う。これこそが3年間I Cにいて学んだことだと思う。何でもいいからただポジティブに生きようと。そうすればどんな状況に置かれてもうまくいくと思う。

英語や外国語により、コミュニケーションの幅が広まったと一番に感じています…短期留学はもちろん、英語だけでなく、第2・第3外国語を習得したことにより、より多くの国の言語や文化に触れることもできました。それは他の高校では学べないため、大学に向けて一足先に学べたことが、私にとって大学への大きな前進となりました。

ネイティブの先生の授業はもちろん、先生方も一人一人がとても個性的で楽しいのですが、その楽しさの中にも小さな間違いであっても何度も何度も原稿を書き直さなければならなかったり、課題も多いときは大変で、「少しくらい妥協してくれたら良いのに」と思うこともありました。でも、今、思い返せば、こういった細かな添削と完璧に近づけるための地道な努力が、私の英語力の向上に大変役だったと思います。

模擬国連で議論したテーマは、実際の国連でも議論されていて、私にもできるのか不安でしたが、友達とたくさん考え、何回も何回も話し合っ出た意見を本番にスピーチした時は、とても達成感を感じました。

ニュージーランドでは、英語の能力が上がっていくのが、自分でもよくわかりました。

何より私が一番学んだことは、日本という国の良さです。それまではすべてがあたりまえだと思っていたことも、ニュージーランドでは通用しなかったり全然違ったりしてとまどったり悩んだりしました。でも、そこから日本人の思いやりの心とか親切さとか人をもてなす心とか、ただの文化や歴史ではない、日本人の人柄みたいなものについてよく考えるようになりました。

私が得たものは、英語の力だけではなく、自分の考え方や人と接することや伝えることの難しさや楽しさ、これから生きていく上で大切なことなど私にとってはかけがえのない瞬間の積み重ねでした。

ニュージーランドでは、日本で味わうことができないような景色だったり文化など自分の中の世界が広がったように思います。しかし言葉の壁はとても高く、いつも学校で先生が話してくれている英語はわかっているけど、現地で話しているスピードだったり発音は難しく、とても苦勞しました。辛いことや大変なことはありましたが、外国人の方と触れ合うことができ本当に楽しかったです。

模擬国連を通してもっと自信が持てるぐらいの英語力を身につけたいと思ったし、貧困問題やジェンダーの問題などについてももっと詳しく勉強したいと思い、新たな目標を見つけることができました。

2年生ではコミュニティ福祉サービスの体験をしました。年をとり、体が不自由となり車椅子生活を送る人たちのサポートをする職員の人たちのお手伝いをしました…人の役に立つ、人の助けになる仕事の最前線で学んだのは、思いやる気持ちでした。そして、思いやりをもって、その人と同じ目線で同じ時間を共有することが大切なのだと感じました。

NZの生活では、自分はすごく親に甘えていたな、と実感しました。甘えることが当たり前で感謝が足りないことに気づきました。せっかく気づいたので、これからは感謝の気持ちを大切にしていこうと思っています。

模擬国連は正に3年間の集大成です。なぜなら、一年生で体験した語学力や積極性の向上、二年生でわかった人を思いやる気持ち、これら全てを合わせて完成されるのが模擬国連だからです… I Cコースはこんなに素晴らしいことを学べるころなんだなあ、と三年生になったら改めて思います。在校生の皆さん、どうかこの素晴らしいコース・学校で多くの体験をし、たくさんのことを学んで下さい！

いろいろな文化に触れて、理解する、しようとする事の大切さを学びました。模擬国連では自分の担当する国を事細かに調べました。調べていく中で、日本では考えられないことが世界では普通なこととか、日本、自分がすごく恵まれた中で生活しているのだと気づかされました…自分から理解しようとする事で、いろんなことに対する考え方が変わっていく良い機会になりました。

N Z研修では、本当にたくさんのことを学び、経験しました。1つは意思疎通の難しさで、これは身にしました。何か伝えるにもすごく時間がかかるし、英語の発音が悪くて違う意味で伝わってしまったり、でもどんな時でもホストファミリーの方は優しく教えてくれて、私を待ってくれました。

私のホストは夕食のときお祈りをして、一人ずつ今日あった嬉しいなことをみんなに発表するというのが日課でした。最初は正直、緊張していてあまり乗り気ではなかったけれど、慣れていくうちに素敵な日課だな、と思うようになりました。自分が感じたハッピーをみんなで共有して笑顔になる、それがもうハッピーなことだと思いました。

3年間を共にした仲間、先生、周りで支えてくれている人の大切さを学びました。3年間、何をすることも一人だったことはなかったです。特に3年間クラス替えのない I Cでは、本当に周りの仲間に助けられました。3年間、楽しいことばかりではなく、たいへんな時もあったけど、その度仲間や、周りの人達と助け合って、本当に、素晴らしい3年間を作ることができました。進学先でも I Cで学んだたくさんのことを活かしながら頑張っていきます。

模擬国連の練習をしていると、英語のすごさを改めて実感しました。たくさんの方が、文化も見た目も全然違う人々が英語という共通語でお互いの意見を言ったり1つのことを解決しようとしていることが本当にすごいと思いました。そこで私もまた英語を好きだった気持ちを思い出し、自分がどんなに恵まれた環境にいるか気づくことができました。

初めの頃は、ついていくことが精一杯で大変だったけど、ネイティブの先生たちが楽しく英語を学べるように工夫してくれて、2年生の頃からは毎回、本当に楽しく充実した時間でした。こんなにも英語を熱心に学ぶことができ、好きになれたのも、本当にネイティブの先生のおかげなので、感謝したいです。

ネイティブの先生の授業は様々なアクティビティを通して楽しく交流ができ、簡単なゲームのような授業でも、振り返ると「あのゲームでやった会話表現や！」とか自然に身につけたりして、こんなことまで考えてあるんや！と気づかされるが多々あります。とてもユニークな授業だし、日常の会話から見えたりする異文化の話や感じ方の違いなどを肌で感じる事ができて、とても刺激的でした。

今まで学んできた茶道や伝統芸能について、他の国の人に教えてあげることもできました。しかし、生け花や祭りの歴史など、ホストファミリーに聞かれて答えられなかったこともあってとても恥ずかしかったという思い出もあります。どんなに英語が喋れても、私があることを知らない限り、答えられなかったと思います。

ネイティブの先生による授業は、日本人の先生の教えてくれる長文や文法以外にも多くのことを教えてくれました。細かいニュアンスの使い分けなど、ネイティブだからこそ分かることを、丁寧に説明してくれました。

どこへ行っても英語が必要とされる時代に I Cで3年間英語を重点的に学べたことは本当に私にとって大きいし、 I Cコースに入って本当によかったです。貴重な時間を過ごさせてもらえたことにビッグサンクス。

ネイティブな英語を生活の中で感じ、文化の違いやコミュニケーションの難しさを痛感しました。そして何より、待っていても何も変わらないということに気がつくことができました。黙っていても誰も助けてくれないし、自分から何かアクションを起こさない限りは人と人との関係もうまくいかないということがわかりました。だからこのN Z研修で人見知りな性格が少しましになったような気がするし、自分の意見も前より言えるようになったことがとても嬉しいです。でも、6週間の研修で（英語力の問題から）ホストファミリーと良い関係をつくることはできず…私の中で、大きな後悔となりました。ですが、これは決してマイナスな後悔ではなく…自分のふがいなさから足りないものを見つけ出すことができました…正直このN Z研修で、ここまで「英語を話せる」ことの大切さを考えさせられると思っていなかったのも、その意味で、この6週間は今まで生きてきた中で最も意味のある有意義な期間だったんだなと思いました。

短期留学での一番の収穫は「好奇心」です。私の基軸の常識が覆された時に、私の中での「ものさし」は形を変えました。

I Cコースでは茶道の授業や日本の文化に触れる機会がたくさんあった。茶道の授業での慣れない正座は大変で、抹茶も苦手だったけど段々慣れてきて皆でお茶を入れ合ったり、上達することが嬉しくて茶道の授業はすごく楽しかった。座禅体験やお茶碗の絵付けなど、 I Cでしか学べないことをたくさん学ばせてもらった。

3年間同じメンバーで…たくさんの方を乗り越えてきて、文化祭など何かに取り組む時は意見が合わなかったりそれぞれが大変な思いをしたことは多かったと思うし、先生たちもこんな個性的なクラスで大変だったと思うけど、皆がいたからこそたくさんの方の経験も積むことができたし、イベント事が大好きなこのクラスで皆の誕生日や節分やハロウィンにパーティーをしたり楽しむことができて、本当に濃い3年間でした。

長い様で短い6週間で私は、何事にも諦めず日々チャレンジするということが自分を成長させてくれるものだ改めて感じました。学校に通うにしても、家族と生活するにしても、会話はとても大切なことだと思いました。電子辞書を使ってでも相手に自分の気持ちを伝えることで、たとえ相手が外国人であったとしても伝わるということがわかりました。

私は、この短期留学で2つ後悔していることがあります。まず1つ目はホストファミリーともっと話したり交流を深めれば良かったと後悔しています。話せる機会があったのに自ら話しかけに行くことができなかったりうまくコミュニケーションが取れなかったことを悔やんでいます。2つ目は、現地の学校へ通っているのに西高生とかたまっていたことです。現地のクラスの子たちとも話したり交流を深めたりはしていましたが、お昼の時などは西高生たちとかたまっていたのでクラスの子たちとも食べれば良かったと思っています。

自信はありませんでしたが、ブロック・リーダーという責任のある仕事に自ら挑戦しようと思い、少し自分の殻を破ることができた、とても良い経験となりました。英語でディスカッションをし、自分の考えを英語で伝える。自分にはとても大変なことでした。日本語でさえきちんと伝えることができないのに、それを英語で伝えなければいけないという大変さ。こうして模擬国連を終えた今感じるのは、人間は一人では生きていけないこと、失敗は誰にでもあるということ、そして、支え合いの大切さです。

この学校、このコースに入り、今まで考えなかった周りの人達の大切さ、支え合うことの大切さ、人を思いやるということ。今、思いつくのはこのぐらいですが、他にももっとたくさん学んだことはあるはず。さらに両親への感謝がたえません。本当によく3年間もの間、私を学校へ通わせてくれたと思います。こんな感情も、この学校に入っていなければ気づかなかったのかもしれない。これからも、周りの人達に感謝を忘れず、未来に向かって歩いていきたいと思っています。

### 3年 ICA 組 女子

卒業まで残り三カ月弱になりました。その中で、学校に通うのもたったの二週間です。ついこの間入学したような気持ちでいるのは、この三年間がとても充実していたということだと思います。

まず、入学してすぐにあったスプリングキャンプでは、色んな人に声をかけました。そして、このクラスは個性派ぞろいなのが分かりました。三日間、色んな遊びをしたり、夜、大部屋で友達と話したりして高校生活の良いスタートがきれたと思いました。それから、数カ月後にはニュージーランドへの短期留学がありました。私のホストファミリーはとても優しく、話を何でも聞いてくれました。ホストファミリーと過ごしたことで私が学んだことは、家族との時間の大切さです。日本とは違い、仕事をする時間が少なく必ず夕方には一緒にご飯を食べられる状態でした。学校では、一人一人の生徒が積極的に授業中に挙手して、答えが間違っているけどもどんどん発言していたことに私は驚きました。

次に、三年間で最も印象に残っていることは模擬国連です。今年、私は議長を務めさせてもらいました。正直、議長をやり遂げる自信もありませんでしたし、友達同士がぶつかり合うことも多々ありましたが、お互いに話し合ったり、励ましあったりして解決しました。その結果、模擬国連の三日間は多少の失敗はありましたが、無事終わることができました。その達成感や、自信を持てるようになったことは今でも忘れられません。そして、すべてが終了した後、私はいくつかのことを学んだことに気付きました。一つは、一緒に頑張っている人達の大切さです。私が、悩んだり泣いたりしていた時に傍にいてくれたのは友達でした。その友達の励ましのおかげで私は何度も頑張ることができました。もう一つは、人間との関わり合いです。クラスの人達だけでなく、模擬国連は全国のような高校から生徒が参加します。その人数の分だけ意見があります。積極的であったり、消極的であったり、英語が得意であったり、苦手であったりと様々でした。その中でどうやって全員が平等に意見を言えたり、納得したりできるかなどを考えました。多分それが最もしんどかった部分だと思います。

私達はまだ残りわずかの高校生活と、大学生活が残っています。それが終われば社会に出て、「教室」の空間だけでなく、日本から世界へと行動範囲を広げていきます。そこで上手く生活していくには人間関係をどう築いていくかが大事だと思います。そのようなことを学ぶことができたのは、IC コースに入ったからだと思います。

### 3年 ICB 組 女子

西高に入学し、IC クラスに入って一番私が良かったと感じることは、他ではできない貴重な経験を数多くできたことだ。中学生のころから留学やガールスカウト活動で様々な経験をしてきたが、今振り返ってみると高校生活ほど充実した三年間は今までなかったと思う。

特に印象に残り、私を一番成長させてくれた経験は、やはりニュージーランドへの留学だ。留学先ではすべての授業を英語で受け、家でも英語で会話し、英語づけの毎日を過ごした。そのおかげで日常英会話やリアルな会話表現などを日本ではできない方法で学ぶことができた。しかし留学を通して、一番私が影響を受けたことは日本語教師との出会いだ。この先生と出会ったことが先生という職業に憧れると共に、日本と海外との教育に対する意識の違いや、異文化理解について興味を持つ大きなきっかけになった。留学から帰ってきてからも、私がニュージーランドで通っていた学校からの留学生を受け入れ、一緒に茶道を楽しむなど、日本の文化を少しでも伝えることができたと感じている。もう一つの大きな経験は、模擬国連だ。模擬国連では世界中で起きている問題を知り、英語で会議をすることで世界に目を向けると共に、日常英会話だけでは学べない英語表現も学ぶことができた。ブロックリーダーとして意見をまとめるという経験も、これからの大学生活で必要になってくると思う。

普段の学校生活でも二週間に一回行われた茶道や、狂言などの日本の伝統文化を鑑賞し、日本文化を学び触れることで異文化への興味が膨らんだ。他にも LA の授業ではネイティブの先生から、実際に使える英語を毎日教えてもらった。この三年間の積み重ねのおかげで、英語を聞くことや、話すことに慣れることができた。

これらの経験を最終的に将来の夢へとつなげることができたのは大学受験のおかげだ。夏休みに AO 入試のための論文を書いた。この論文を書くために、これまでの経験を整理し、これから自分が何をしたいのかを考えることで、今自分がしなければならないことを発見できる大きなきっかけになった。もし AO 入試を受けなければ高校生活を振り返ることもなく、留学や模擬国連などの経験を無駄にってしまったかもしれない。今までの経験をどのようにつなげ、どのように今後に生かすかによって「経験の価値」は変わってくるのだと思う。大学に入学してもこのことを決して忘れずに多くの経験を将来に生かしていきたい。